

豚赤痢の侵入を許すな、その前に・・・

～バイオセキュリティの重要性～

一般に豚赤痢は世界中で大きな問題となっていますが、先進国のアメリカでも PCVAD の爆発的発生の少し前、つまり 2007 年ころに大きな問題となりました。PCV2 によって隠れていましたが、汚染レベルが表面化した農場がかなり報告されたのです。

血が混じる下痢～軟便、発育不良など直接の被害も甚大ですが、離乳から出荷まであるレベルの添加剤を継続しなければならぬことも大きな問題となる疾病です。こうした現象についてノースカロライナの研究者はこうコメントしています。「世界の多くの国では、依然として抗生物質などが十分に使用できないので強毒株の共存が見過がされている。一方、アメリカなどの先進国は治療として十分な投薬行為が施され、生産システムの整備と共にほとんど駆逐されたかに見えました。しかし実際には臨床的な症状が不明確な、病原性は弱いけれども駆逐しにくいしつこい菌を生み出してしまったのではないか。」

最近の進んだ診断技術(PCR)をタイムリーに実施して効果的に関連疾病の鑑別を行うことがその対策の一つです。つまりサルモネラ、TGE、豚の結腸スピロヘータ(豚赤痢と同じ仲間の菌による慢性的な下痢の病気)、回腸炎との違いの識別です。これだけAIAOの進んだアメリカでも下痢などの消化器病は別問題で、豚赤痢はこと、いったん侵入すれば大きな被害をもたらす厄介な存在です。

豚赤痢に感染したら拡散防止として以下の対策が一般に提唱されています。

- ① **最も問題をこじらせるのがネズミです。ネズミは菌を 6 カ月も保有すると言われており、一掃しなければなりません。問題がない時こそ**ネズミの問題を第一**に検討しておきましょう。**
- ② **豚舎に糞を残さないことです。豚舎の洗浄、消毒はより丁寧に行う必要があります。その際には**普段使わないアルカリ洗浄剤**なども有用です。すでに常識ですが、**ダウンタイムの乾燥は必須条件**です。**
- ③ **ハエも重要な媒介者として注意しなければなりません。感染量の菌を伝播することもわかっていますので衛生害虫として日頃から駆除を徹底しましょう。**
- ④ **農場に戻ってくるトラック、車、人は要注意です。特に**食肉センターに出荷したトラック**は、特段の注意を払って菌の持ち込みなどがないように気をつけましょう。**

カルバドックスが最も有効な抗生物質(特効薬)として長い間使用されてきましたが、休薬期間も長く、残留の問題もあることから、現在は使用できません(アメリカなど海外では、ごく限定的に使用される薬品です:離乳舎に限定)。

- ⑤ **一般的にはチアムリンやリンコマイシン、高価ですがエコノアなども抗生物質として選択されます。**



フィーダーに潜むネズミ:いつか悪魔を伝播するようになればいいが…

豚赤痢やサルモネラ、TGEは農場のバイオセキュリティの完成度を示す一つのバロメーターです。このような問題で苦労している農場は、生産性の改善には時間がかかるかもしれません。

2010年11月 グローバルピッグファーム(株)